

2018年度 放課後くらぶひこばえ 事業所自己評価結果		そう思う	どちらかという えばそう思う	あまり わない そう思	そう 思わない	わ から ない	改善目標、工夫している点など	
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である。	0	4	5	1	1	・人数が増えたので雨の日などは狭く感じることもある。 ・曜日により適切でない場合はグループに分かれて散歩行くなどしている。 ・10名を超えると狭いと感じます。 ・子どもたちが大きくなり手狭に感じる。グループ分けなどを行っていく。
	2	職員の配置数は適切である。	5	5	0	0	1	・人数が多く配置しているの、ゆっくり丁寧に支援ができるのでよい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切にされている。	0	2	3	5	1	・段差などが屋内外共にあるが、必要に応じて声掛け、介助をしている。 ・段差が多い。 ・バリアフリーではありませんが、良い面もあると思います。 ・バリアフリーで対応できないところは人で対応している。 ・今年度中に段差に手すりを設置予定である。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している。	4	4	1	0	2	・職員ミーティングを行いよく話をするようにしている。
	5	保護者向けアンケート調査を実施して、保護者等の意向等を把握し、業務改善に努めている。	5	5	0	0	1	・今年度も自己評価と同時に保護者アンケートを実施した。昨年度アンケートでいただいた意見で改善できることには取り組んだ。
	6	この自己評価表の結果を、事業所の会報やHP等で公開している。	6	1	0	0	4	・ホームページで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている。	3	0	0	1	6	・第三者評価はまだ行っていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している。	6	3	1	0	1	・職員の経験や勤務年数に応じた研修参加や内部研修を実施している。
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成している。	8	2	0	0	1	
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している。	5	0	0	1	5	・個別に記録しているので、書式があってもよいと思う。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている。	7	2	0	0	2	
	12	活動プログラムが固定化しないように工夫している。	6	2	2	0	1	・最近は固定化しがちなので、職員同士で案を出しやすい雰囲気を作りたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している。	8	2	0	0	1	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで個別支援計画を作成している。	7	4	0	0	0	・個別支援計画を読み、理解を深めたいと思います。
	15	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。	7	4	0	0	0	
16	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している。	11	0	0	0	0		

関係機関や保護者との連携	17	日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証、改善につなげている。	6	5	0	0	0	
	18	定期的モニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している。	7	2	0	0	2	
	19	自立支援と日常生活の充実のための活動や、創作活動、地域交流の機会の提供、余暇の提供などを複数組み合わせる支援を行っている。	7	2	0	0	2	・行事を通じて地域との交流に参加している。余暇の支援はない。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画している。	4	3	0	0	4	・機会があれば管理者以外も参加できればよいと思う。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換・子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応・トラブル発生時の連絡)を適切に行っている。	6	5	0	0	0	
	22	就学前に利用していた保育園や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている。	3	4	0	1	3	
	23	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している。	4	3	0	0	4	・同じ法人内では引継ぎがスムーズにできるが、今後他の事業所への移行もスムーズに行えるよう努めたい。
	24	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている。	4	1	2	0	4	
	25	障害のない子どもと活動する機会がある。	8	1	0	0	2	・同一敷地内に児童館があり、日ごろから交流する機会がある。
	26	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	2	0	0	6	
保護者への説明責任等	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっている	7	3	1	0	0	・支援者と家族とではみえている状況も異なるので、難しいところだとは思う。こどものことを一緒に考えていける関係を作っていきたい。
	28	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている。	3	3	2	1	2	
	29	運営規定・支援の内容・利用者負担等について丁寧な説明を行っている。	6	4	0	0	1	
	30	保護者からの子育ての悩み等の相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。	6	3	0	0	2	
	31	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している。	3	2	2	0	4	・今年度は保護者交流会の開催はできていない。
	32	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している。	6	5	0	0	0	
	33	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している。	7	3	1	0	0	・メールでの情報配信はこまめに行っている。 ・日々の様子はブログで見てもらえるようにしている。 ・保護者への周知は定かではない。
	34	個人情報に十分注意している。	8	3	0	0	0	
	35	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている。	5	6	0	0	0	
	36	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っている。	8	3	0	0	0	ひこばえまつりに参加している。
	37	緊急対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	6	0	0	0	

非常時の対応	38	非常災害の発生に備え、定期的に避難訓練を行っている。	9	2	0	0	0	・年2回は児童館と合同で行っている。1回は消防署にも来ていただいた。
	39	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている。	8	2	0	0	1	・外部研修も含め折に触れ虐待については話をするようにしている。
	40	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得たうえで、個別支援計画に記載している	6	1	0	0	4	・現在身体拘束に当たる対応はしていない。
	41	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている。	2	3	0	1	4	・家庭からの情報のみで対応している。医師の指示書が必要な利用者はおられない。
	42	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	10	1	0	0	0	・今年度よりヒヤリハット報告を開始し、職員間で共有を図っている。